西貝地区体育部

西貝地区は30年誌にも述べたとおり60年前は純農村で小学校（現西貝公民館）に赤松と楠の木の外を回って走る100mがやっとの運動場であった。その様な状態でも家族総出の運動会は現在と同様、随分にぎやかなものであった。地区民総出の勤労奉仕で運動場の改修が行われ、現公民館東側のグラウンドが出来上るまでの昭和20年代の歴史は、地域スポーツ振興をかけた西貝体育委員先輩諸氏による運動場造りの歴史であった。

これも昭和32年の小学校区再編成や磐田東高校の移転、運動場の宅地化等、幾たの遍歴を経て現在の公民館前のグラウンドとなった。

昭和47年に地域のコミュニティ施設として体育館が新設され、これを機に公民館活動の一環として細々と続いてきた体育部も一気に充実し、体育館を利用した婦人バレーボール、バドミントン、子供会によるミニバスケット、狭いながらも公民館グラウンドを利用した子供ソフト、父親ソフトが盛んに行われるようになった。

また、卓球大会が復活したのもこの頃であった。今までは体育祭が体育行事の中心であったが、体育館が併設されると同時に他地域との交流が盛んになり、田原地区、御厨地区、南御厨地区、城之崎地区、西貝地区の体育部長が集まり、東部地区大会が設置され現在も運営されている。

昭和50年代に入ると、小学生の数が減り、地区体育祭も競技はあるものの、人が集まらず体育委員が代わる代わる出場するといった苦労の運営が続いた。そんな中、「地区民あげての体育祭参加」を合言葉に各地域内の防災テント利用や、弁当持参のコミュニティと称して競技中心の種目から楽しんでもらう競技や誰でもが参加できる種目への変換を図り、また地区旗作成、体育委員の地区２人制導入等、８年余りをかけスポーツを通じての現在の体育祭に仕上げられた。

昭和60年代公民館区の再編成により、昭和49年来続いてきた城之崎運動会は昭和62年第13回を最後に、西貝地区との合同の体育祭となった。これにより参加延人数は一気に２千人規模に拡大していった。

現在、平成に入り、公民館を中心に、磐田体育協会や体育指導委員会と協力し、生涯スポーツと地域をうまく調和させ、先輩たちの運動場造りの御苦労を無にすることなく、地区民の健康や体力増進に力を注ぎ、体育祭だけではなく、青年には青年の、老人には老人に合った運動を推進し、老人スポーツはもとより少年野球、少年サッカーの開催とウォーキング、ジュビロ磐田メモリアルマラソンへの参加等次の世代につなげるスポーツを地域とともに発展させている。

西貝地区体育部活動は現在も若い人に引き継がれ発展している。

（文責　磯部知明）

とんぼの里ウォーキングを入れる
ひょうたん池